



第 9 号
2023 年
10 月 29 日

小笠原プロジェクト2023

『青年たちが小笠原に出会う』活動報告

2023年9月8日～9月13日の6日間をかけて小笠原諸島の父島に訪れ小笠原の自然に触れ歴史を学びました。

今回の企画は東京教区青年会から東日本宣教協働区の青年たち呼びかけられ、東京教区から7名、北海道教区から2名、引率として藤田美土里執事、藤田誠執事、太田信三司祭の計12名で小笠原に向かいました。北関東教区からも1名申し込みがありました。北関東教区から直前で体調を崩されたため、参加が叶いませんでした。

9月8日10時半に竹芝桟橋客船ターミナルから船で24時間かけて小笠原に向かいました。当日は東京に台風が直撃しましたが台風の勢力がたまたま弱かったため台風直下でも船の運航ができたため運に恵まれました。東京湾から出て太平洋側に向かうにつれて揺れが激しくなり少し驚いたものの参加したメンバー同士で食事をしながら話を交わし、船から見た海の景色（海鳥が船の近くまで飛んでくる様子やトビウオが船の波に合わせて飛ぶ光景）や夜景はとても壮観であの船の上でしか見ることのない体験を味わえました。また、太平洋に出るにつれて携帯の電波が届かなくなるため普段の生活とは違った時間の使い方ができとても新鮮でした。

小笠原に着いて1日目は宿泊先のヴィラシーサイドに着いた後、レンタカーで父島を一周し、1830年以降に父島に定住したセーボレー家やワシントン家、ゴンザレス家の方々や信徒の方々の墓地向かい逝去者のために祈りをささげました。夕食後、聖ジョージ教会にて今日の出来事の振り返りをして、思ったことや今までと小笠原に訪れた時の心情の違いを分かち合いました。

2日目は朝食の後、聖ジョージ教会にて信徒の方々との聖餐式をささげました。教会の窓ふきをみんなで行い、信徒の方々からの差し入れをいただきました。その後ワシントン家の子孫にあたるイーデス・ワシントンさん宅に向かい、戦時中に小笠原から疎開し、戦後アメリカ軍から返還され小笠原に戻って来たお話を聞きました。途中、島の方がイーデスさんに晩御飯のお裾分けを持ってこられた時には島の方々の温かさを感じました。3日目は自由行動をし、各自関心のあることに取り組み、分かち合いをしてこの日を終わめました。

4日目は聖ジョージ教会信徒のセーボレーさんとセーボレーよしこさんに案内され、戦争の遺産や種子島宇宙センターから打ち上げられるロケットを観測する施設やオガサワラオコウモリを見て、朝焼けをみんなで見にいきました。通常臆病なので見ることが難しいオガサワラオコウモリを運よく見ることができ、朝焼けも絶景で貴重な体験でした。小笠原から帰る道中、よしこさんから「レイ」と呼ばれるハワイから伝わるおまじ

ないのアイテムの作り方を教わりました。このレイは帰りの船の出港時に岸に向けて投げ、岸に届いたら再び小笠原に戻れるというおまじないアイテムです。出港後にレイを投げました。また、島の皆さんが船で我々の船を追っかけながら手を振ってくださいたり、太鼓を叩いてくださったり、旗を振ってくださいたりと、小笠原の温かさあふれる見送りをいただきました。

小笠原は、内地にいる我々では見られない固有の野生動物がいて、人びとの温かさもありながら、歴史的には、多様な文化が入り混じり、戦争の爪痕が残る場所でもあります。それは我々が普段触れることのできない「景色」でした。また、「自分がクリスチャンである」ということを自然に人に打ち明けられる不思議な空間です。今回の旅でも、宿の食事の時に会った牧師の友人がいるノンクリスチャンの方は、食前の祈りを一緒にささげてくださいました。帰りの船でもその方にお会いし、晩酌をしながら楽しく話を交わす機会が与えられました。

小笠原の旅では、不思議な縁や歴史や雄大な自然に触れ、社会人や大学生同士で交流し、分かち合いによって人生の新たなヒントが見つかる方もいるかもしれません。興味のある方はぜひ小笠原を訪れてみてはいかがでしょうか？ 戦火にさらされたながらも、島の人々が守り続けてきた教会や島の人びとの温かさ癒されながら雄大な自然に心を打たれてみませんか？

【宣教協働小委員会 巡礼チーム】
教会訪問記

北関東教区 日立聖アンデレ教会

10月9日、寒い雨の日に、日立聖アンデレ教会をお訪ねしました。

9月の豪雨は、日立の教会に大きな爪跡を残しました。教会のある丘の上に続く道が一部崩落し、ガードレールも大きく歪んで車の往来ができなくなっていました。そんな大変な状況の中、教会の方々から大変手厚いおもてなしを受け、胸が熱くなりました。

海の見える静かな丘の上に佇む教会は、外国の昔話に出てきそうな建物です。中はノアの箱舟をイメージして創られ、太い木が編むように天井を支えています。その箱舟の中で主日礼拝がさざげられている事にロマンを感じました。そして、信徒の方が制作されたステンドグラスにも感動。とくに聖母子の作品は、見つめ合う母と子が、作られた方の熱い想いと重なり心に優しい響きを感じるようでした。

ご準備くださった写真や資料をもとに、日立市の成り立ちや、聖アンデレ教会の歴史に触れることが出来ました。太平洋戦争中に米軍の艦砲射撃やトーン爆弾で信徒にも犠牲者が出たこと

と、東日本大震災で日立は震度6強の揺れを受け、教会に大きな被害が出たにもかかわらず、聖公会のボランティアセンターとなったこと、そして併設の二葉幼稚園が2016年に閉園したこと……。数々の苦難を乗り越え、地域の人と喜びも苦しみも共にしてきた教会の歩みは忘れられません。

午後は海沿いの道を通って郷土資料館へ。日立鉱山の山に150mの大煙突が聳えていたことを想像しているうちに帰る時間となりました。車中で日立の教会の愛唱歌「丘上の教会」を口ずさみながら一路東京へ。今度は天気の良い日に丘の上の教会をまた訪ねたいと思います。貴重な一日を与えてくださった日立の皆さまに感謝いたします！



写真いっぱい！
巡礼チームブログ

次回は、12月2日立教女学院〜東京教区聖マリアレット教会〜ナザレの家へ訪問予定です。お申し込みお問い合わせは、「巡礼チーム」メールアドレスです。

締切：11月26日

junreiteam@googlegroups.com

〈お知らせ・報告〉

★北関東教区 第6回「教会を語る会」開催

9月18日、志木聖母教会にて「教会を語る会」が行われました。東京教区から4名のゲスト参加があり、宣教協働と新教区設立について、活動の分かち合い、意見交換が行われました。詳細は10月29日発行北関東教区時報第360号をご覧ください。

* * *

★東京教区 外灘教会グループ・

障がい者関連活動連絡会 共催

「みんなでつくるクリスマスパーティー」

12月2日(土) 14時〜16時 @目黒聖公会

障がいのある人もない人も、一緒に作って楽しむクリスマスパーティー。会費300円 定員50名
申し込み・お問合せ：syokanren@gmail.com

『きょうどう通信』へおたよりをお寄せください。宣教協働へのご意見・ご質問は下記メールアドレスまで。ご意見は「特別委員会」で共有しますが、掲載できませんが、ご了承ください。「クリスマス」をテーマにした川柳もお待ちしております。お名前は載せません。
kouhou.k.t@gmail.com

『きょうどう通信』第9号

北関東教区・東京教区宣教協働特別委員会

広報小委員会